



第38回「Qの会」

研修会開催

6月22日香川大学において「Qの会」第38回研修会が開催されました。今回は「災害時の糖尿病療養支援に必要なこと」というメインテーマで講演、グループワークが行われました。

講師は香川大学医学部付属病院看護部の看護師 日本CMAT隊員 熊野耕先生をお迎えし、「災害時に知っておくべき基礎知識と最新の動向」・「災害発生時の慢性疾患への支援」について講演がありました。いつ、どこで、どのような災害が起きるかもしれない現在の状況の中で、国や地域にどのような災害対策チームがあり、具体的に活動しているのか大変参考になりました。また、現場で災害対策チームとの連携の在り方を考えるヒントを得ることができました。

グループワークでは「自施設で生かせる災害に備えた糖尿病療養支援についてみんなで考えよう」というテーマで災害拠点病院・一般総合病院・診療所に別れて、各自で知ること・調べたこと・自施設での災害に対する備え・各自の施設で明日から

できる日々の備えを想定したり、災害時に在宅で生活している糖尿病患者さんが困ることなどグループ内で共有、質疑、意見交換をし、グループごとに発表を行いました。

他の施設での災害への備えや対策を知るのは明日から取り組める災害対策のヒントになり、自分たちが生活する地域やコミュニティへの防災対策に関心を持つ重要性を再認識することができました。

研修会アンケート結果

第38回研修会参加45名うち37名より回答をいただきました。講演会についての意見として「災害に対する知識、状況の共有を他施設の方とできた事は有意義でした。」「他施設の方とのグループは大変参考になりました。」「講義内容も話も面白く、興味深く聞かせてもらいました。すこわかりやすかったです。また、次回も災害の話をもっと掘り下げて欲しいです。」「意識をいかに自分の中で育て維持するか難しいです。その中でコミュニケーションをし続けることが難しいです。いろいろな状況を想定し、その中でシミュレーションをし続けることが肝要かな。」などご意見をいただきました。

今後の研修会のテーマについて「患者教育」「ポンプ療法」「医療安全」が多くありました。

香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」

第36回研修会のご案内

日時：2025年11月30日（日）13時から17時

場所：香川大学医学部看護学科305教室

メインテーマ：「糖尿病看護さほんのき パート2」

―看護師ができる食事療法と薬物療法―

★ホームページから申し込みください

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★日本糖尿病学会中国四国地方会
第63回総会：2群4単位
日時：2025年10月31日（金）・11月1日（土）

場所：愛媛県民文化会館
★第28回日本腎不全看護学会学術集会・総会：第1群2単位
日時：2025年11月29日（土）～30日（日）

場所：神戸国際会議場
★第69回日本糖尿病学会年次学術集会：第2群4単位
日時：2026年5月21日（木）～23日（土）

場所：大阪国際会議場 他



「JADEN29 AWARD」を受賞した

香川大学医学部看護学科慢性期成人看護学教授 西村亜希子

このたび、第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会においてJADEN29 AWARDを賜りました。名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。まずは、これまでご指導いただいた諸先生方、共に研究を進めてくださった共同研究者の皆様、そしてご協力くださった研究参加者の皆様に、心より感謝申し上げます。

JADEN29 AWARDは、学術集会で発表された一般演題の中から選ばれる賞です。私たちの演題は「高齢者糖尿病の地域差…都市部と地方部のフレイルの特徴と相違点」でした。私たちが高齢者糖尿病のフレイル予防に取り組み始めたのは2014年。当時は、まだフレイルやサルコペニアという言葉が広く知られ始めた頃でした。「糖尿病をもつ高齢者は、なぜフレイルになりやすいのか？」という素朴な疑問から、糖尿病外来での調査を開始しました。

フレイルに関する研究は、身体機能低下に焦点が当てられることが多い中、私たちは「看護師が患者の生活に関する情報を多く把握している」という点に注目し、生活やセルフケアに関する情報をより詳しく調べました。どのような生活習慣やセルフケアの特徴を持つ人がフレイルになりやすいのかを明らかにできれば、身体機能やADLが低下する前に暮らしの様子を手がかりに予防的な介入ができるのではないかと考えたのです。

この取り組みに共感し、協力してくださった全国の看護士の皆様のおかげで、研究は全国規模の多機関共同研究へと発展し、今回のように都市部と地方部を比較することも可能になりました。研究を通して得られた多くの出会いや経験は、かけがえのない財産です。

私たちの研究室では、現在も糖尿病看護に関する多様なプロジェクトを進めています。今回の受賞を励みに、今後も社会に貢献できる研究に真摯に取り組んでまいります。



◆編集後記 外はまだ猛暑室内はキンキンの冷房。体調管理が難しい季節ですがいかがお過ごしでしょうか。小松原たか子・串田久美

発行所 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会

<http://www.qnoka.or.jp>